



# 地質調査所報告

第百二十五號

昭和十六年度事業報告  
昭和十七年度事業報告

# 地質調査所報告 第二百二十五號 (昭和十八年三月)

(昭和十六年度事業報告)

## 目次

一、地質鉞床調査(第一部、第二部担当)	一頁
一 図幅地質調査	一頁
二 図幅鉞床調査	二頁
三 鉄鉞調査	二頁
四 特別調査(官民受託ヲ含ム)	三頁
二、燃料地質調査(第三部担当)	五頁
一 油田地質精査	五頁
二 特別調査(官民受託ヲ含ム)	五頁
三 試錐調査	七頁
三、物理探鉞及試錐(第四部担当)	七頁
一 鉞床探査	八頁
二 油田探査	九頁
三 特別探査	一一頁
四 試錐	一二頁
四、測量及製図(第五部担当)	一二頁
(甲) 測 量	一二頁
一 図幅調査ニ伴フ測量	一二頁

二 地質鉞床調査ニ伴フ測量	一三頁
三 燃料地質調査ニ伴フ測量	一三頁
四 物理探査ニ伴フ測量	一五頁
(乙) 製 図	一七頁
一 図 幅	一七頁
二 地質鉞床 図	一八頁
三 油田地形及地質 図	一八頁
四 物理探鉞 図	一九頁
五 特別製 図	一九頁
六 製 図參考資料調査	二〇頁
五、分析及品質試験 (第六部担当)	二〇頁
一 分析試験	二〇頁
二 特別試験	二一頁
三 特別調査	二一頁
六、報告 会	二二頁
七、庶務及會計 (庶務課担当)	二二頁
一 職 員	二二頁
二 経 費	二四頁
三 出 版 物	二五頁
四 文 庫	二八頁
五 鉞物陳列館	三一頁

昭和十六年度事業報告

昭 和 所  
地 質 調 査  
地 質 調 査 所

地質調査所長 山 根 新 次

時局ノ進展ニ伴ヒ、本所ノ事業愈々其ノ重要性ヲ加ヘタルヲ以テ、經常竝ニ臨時事業ノ拡充強化ニ力ヲ致シ所期ノ成果ヲ収メツ、アルモ、更ニ一層之カ促進ヲ期センカ為、本所機構ノ内容充実ヲ図ルト共ニ本年度ヨリ新ニ予算ヲ得テ戦力増強上特ニ緊急ヲ要スル鉄鉱及製鉄用鉱物資源調査ニ着手セリ。

一、地質鉱床調査（第一部、第二部担当）

一、図幅地質調査

本年度ニ於テ調査シタル七万五千分之一地質図幅ハ其ノ數五ニシテ図幅名、調査員其ノ他左ノ如シ。

(図幅名) (調査員) (外 業 期 間) (記 事)

豊 岡 早川 技師 昭和十六年 自五月十二日 至十一月八日 本年度着手 調査完了 図幅鉱床調査ト並行実施

船 津 (近藤 技師 昭和十六年 自五月二十九日 至十月三日 前年度着手 調査完了 大津 技師

鬼 首 梅沢 技手 昭和十六年 自七月二十日 至十月十九日 前年度着手 調査完了

山形北部	別所技師	昭和十六年(自七月十三日 至七月十二日)	前年度着手 調査完了
小本	宮本技師	昭和十六年(自十一月八日 至十一月二日)	本年度着手 調査完了

二、凶幅鉞床調査

本年度ニ於テ七万五千分之一凶幅地内ニ於ケル鉞床調査ヲ施行シタルモノ其ノ数一凶幅ニシテ凶幅名、調査員其ノ他左ノ如シ。

(凶幅名) (調査員) (外業期間) (記事)

豊岡	早川技師	昭和十六年(自五月十二日 至十一月八日)	本年度着手 調査完了 凶幅調査ト併行実施
----	------	-------------------------	-------------------------

三、鉄鉞調査

本調査ハ昭和十六年度ヨリ実施セル事業ニシテ、本年度ニ於ケル調査件名及調査員其ノ他ハ左ノ如シ。

(調査件名) (調査員) (外業期間)

長野県西筑摩郡木曾福島町満庵鉞	吉村技師	昭和十六年(自四月二十九日 至五月二十二日)
-----------------	------	---------------------------

群馬県吾妻郡東六合鉞山鉄鉞

齋藤技師	昭和十六年(自六月十一日 至八月二十二日)
吉村技師	昭和十六年(自五月十七日 至七月二十七日)

兵庫縣朝来郡但馬鉾山鉄鉾

斎藤技師

昭和十六年

自七月九日至八月三日

北海道常呂郡訓子府満庵鉾

吉村技師

昭和十六年

自七月二十四日至八月十六日

石川縣能登地方満庵鉾

吉村技師

昭和十六年

自八月三十一日至九月十三日

滋賀縣南部地方満庵鉾

吉村技師

昭和十六年

自十月二十七日至十一月十四日

愛知縣丹羽郡犬山町満庵鉾

吉村技師

昭和十六年

自十一月二十四日至十二月四日

茨城縣西茨城郡笠間町満庵鉾

吉村技師

昭和十六年

自十二月四日至一月四日

新潟縣南魚沼郡蟹沢山鉄鉾

千歳技師

昭和十七年

自二月二十八日至三月十二日

福島縣石川郡小倉鉾山鉄鉾

藤

昭和十七年

自二月二十八日至三月十二日

四、特別調査(官民受託ヲ含ム)

(調査件名)

(調査員)

(外業期間)

(記事)

広島縣勝光山加里鉾

片山(信)技師

昭和十六年

自四月十二日至四月十四日

岩手縣和賀郡下福磐土

片山(信)技師

昭和十六年

自四月二十日至四月二十六日

和歌山縣下ニツケル鉾

田中技師

昭和十六年

自五月十二日至五月十二日

満州國、中華民國及蒙疆鉾産資源

山根所長

昭和十六年

自四月二十七日至五月二十七日

受託調査

山形県南村山郡赤山鉱山金銀銅鉱

片山(信)技師

昭和十六年

自五月二十八日  
至五月二十三日

受託調査

群馬県群馬郡金島村地下水

近藤 技師

昭和十六年

自五月二十三日  
至五月二十六日

受託調査

岐阜県恵那郡岩倉鉱山螢石

片山(信)技師

昭和十六年

自六月十三日  
至六月十日

受託調査

北海道紋別郡下チタン鉄鉱

斎藤 技師

昭和十六年

自六月二十九日  
至六月二十九日

受託調査

福井県遠敷郡内富鉱山加里鉱

片山(信)技師

昭和十六年

自七月七日  
至七月七日

受託調査

岩手県和賀郡柳沢鉱山銅鉛亜鉛鉱

片山(信)技師

昭和十六年

自七月十七日  
至七月三十一日

受託調査

中華民国河北省昌平県滿庵鉱石綿其他

田中 技師

昭和十六年

自八月二十九日  
至八月二十九日

受託調査

中華民国山東省青島特別市 螢石雲母 重石其他

岩生 技師

昭和十六年

自八月三十一日  
至一月三十一日

受託調査

奈良県吉野郡葛川鉱山コバルト鉱

千藤 技師

昭和十六年

自十月十六日  
至十月二十六日

受託調査

福岡県田川郡赤村及佐賀県小城郡南山 村長石

片山(信)技師

昭和十六年

自十月二十五日  
至十月十六日

受託調査

愛媛県喜多郡大久喜鉱山金銀銅鉱

山田 技師

昭和十七年

自二月十二日  
至二月二十一日

受託調査

以上ノ外鈴木技師ハ興亜院囑託トシテ蒙疆ニ出張シテ鉱床調査ニ従事シ、又石井技師ハ外務省囑託トシテ、片山(信)技師及斎藤技師ハ外務省囑託及拓務省囑託トシテ仏領印度支那ニ出張シ各種鉱産資源調査ニ従事セリ。

## 二、燃料地質調査（第三部担当）

本年度ニ於テ施行シタル油田地質精査、試錐竝ニ特別調査ノ各調査区域、調査員其ノ他ハ左ノ如シ。

### 一、油田地質精査

(油 田 名)	(調査員)	(外 業 期 間)
北海道豊富油田北部	片山(勝)技師	昭和十六年 自八月六日 至十二月九日
北海道徳富油田北部	橋本技師	昭和十六年 自七月九日 至十月五日
北海道杵臼油田北部	竹原技師	昭和十六年 自七月二日 至十月八日
新潟県頸城油田西部	池辺技師	昭和十六年 自七月二十七日 至十二月九日
新潟県石黒油田西部	沢森田囁託師	昭和十六年 自六月十九日 至七月三十日
新潟県古間油田西部	竹原技師	昭和十六年 自十月十七日 至十二月五日

### 二、特別調査(官民受託ヲ含ム)

(調 査 件 名)	(調査員)	(外 業 期 間)
滋賀県下天然瓦斯	池辺技師	昭和十六年 自四月十二日 至四月十四日

(記 事)

(記 事)



山形県飽海郡西遊佐村及新瀉県西蒲原郡角田村試錐地々質

秋田県河辺郡仁井田村及山形県西田川郡袖浦村試錐地々質

秋田県及新瀉県石油試錐地々質

千葉県長生郡茂原町天然瓦斯

秋田県南秋田郡大平山、豊川油田間地質

秋田県山本郡八森油田天然瓦斯

秋田県河辺郡仁井田村及新瀉県西蒲原郡角田村試錐地々質

北海道宗谷郡猿払村浅茅野炭田

滋賀県下天然瓦斯

中華民国河北省臨城炭田南接予想炭田  
中華民国山東省磁窑炭田  
中華民国山東省禹村炭田  
中華民国山東省南村南方予想炭田

秋田県秋田市及同県河辺郡仁井田村試錐地々質

青森県秋田県及山形県油砂及アスファルト

静岡県榛原郡初倉村及相良町石油

三土技師

昭和十六年

自四月十二日至四月十五日

三土技師

昭和十六年

自四月二十四日至五月一日

兼子阿部 嘱託師

昭和十六年

自五月十七日至五月二十五日

藤原技手

昭和十六年

自五月二十五日至六月二十日

兼子阿部 嘱託師

昭和十六年

自五月二十六日至六月十日

八木技師

昭和十六年

自六月十五日至六月二十五日

三土技師

昭和十六年

自七月八日至七月十五日

片山(勝)技師

昭和十六年

自七月八日至七月十九日

兼子技師

昭和十六年

自七月七日至七月十九日

松沢技師

昭和十六年

自八月三十一日至八月六日

三土技師

昭和十六年

自九月十五日至九月十八日

兼子技師

昭和十六年

自九月二十六日至十月六日

三土技師

昭和十六年

自十月二十七日至十一月一日

受託調査

受託調査

新潟県 柏崎市 試錐地々質  
 新潟県 古志郡 東山油田 坑道掘  
 新潟県 及秋田県 石油試掘地々質  
 新潟県 柏崎市 及秋田県 秋田市 試錐地々質

新潟県 柏崎市 及同県 刈羽郡 田尻村 試錐地々質

秋田県 秋田市 及新潟県 刈羽郡 田尻村 試錐地々質

千葉県 安房郡 鴨川町 附近 石油及天然瓦斯

以上ノ外 八木技師ハ 拓務省囑託トシテ 樺太ニ 出張シ 石炭調査ニ、又 外務省囑託トシテ 仏領印度支那ニ 出張シ 石油調査ニ 従事セリ

### 三、試錐調査

(試錐地)	(試錐深度)	(記)	(事)
秋田県 河辺郡 仁井田村 (仁井田第三号試錐)	三〇〇・〇〇米	完了	
秋田県 河辺郡 仁井田村 (仁井田第四号試錐)	三〇〇・〇〇	完了	
秋田県 秋田市 茨島町 (茨島第一号試錐)	三四五・五七	予定深度三五〇米ナリシモ 地層崩壊ノ為 上記深度ヲ以テ 中止ス	
山形県 西田川郡 袖浦村	三〇〇・〇〇	完了	
新潟県 西蒲原郡 角田村 (角田第二号試錐)	三〇〇・〇〇	完了	
新潟県 柏崎市 (柏崎第一号試錐)	三〇〇・〇〇	完了	
新潟県 刈羽郡 田尻村 (柏崎第二号試錐)	三〇〇・〇〇	完了	

三土技師	昭和十六年	自十一月十五日
池辺技師	昭和十六年	自十二月二十五日
池辺技師	昭和十七年	自二月七日
池辺技師	昭和十七年	自三月二十六日
三土技師	昭和十七年	自三月二十五日

受託調査

### 三、物理探鉱及試錐（第四部担当）

本年度ニ於テ施行シタル物理探鉱及試錐左ノ如シ。

#### 一、鉱床探査

（調 査 地）

（探鉱法）

（調査員）

（野外調査期間）

島根県鹿足郡

津和野鉱山

磁気探鉱

淵田 技師  
松元 技手

昭和十六年

自四月二十九日  
至四月二十九日

群馬県利根郡、吾妻郡

大道鉱山

磁気探鉱

佐川藤 技師

昭和十六年

自五月二十一日  
至六月十一日

福島県双葉郡

上岡鉱山

磁気探鉱

佐川藤 技師

昭和十六年

自七月九日  
至七月九日

岡山県川上郡

本山 鉦山  
相山 鉦山

磁気探鉱

佐藤 技師

昭和十七年

自二月二十八日  
至三月二十八日

兵庫県宍粟郡

高野鉱山

磁気探鉱

村上 技師

昭和十六年

自四月二十八日  
至四月二十八日

青森県下北郡

大正鉱山

電気探鉱

室野 技師

昭和十六年

自七月二十五日  
至八月三十一日

奈良県吉野郡

川股鉱山

電気探鉱

服部 技師

昭和十六年

自六月十六日  
至七月十六日

山形 県南村山郡 赤山 鉾山

岩手 県和賀郡 柳沢 鉾山

岡山 県久米郡 坪井 鉾山

愛媛 県喜多郡 大久喜 鉾山

福岡 県安達郡 高玉 鉾山

福岡 県河沼郡 羽根 鉾山

静岡 県田方郡 台ヶ島 鉾山

大分 県賀茂郡 宇佐 鉾山

福岡 県八幡郡 星野 鉾山

鹿児島 県川辺郡 春日 鉾山

鹿児島 県日置郡 串木野 鉾山

電気探鉾

電気探鉾

電気探鉾

電気探鉾

電気探鉾

電気探鉾

電気探鉾

電気探鉾

電気探鉾

電気探鉾

電気探鉾

福野 永口(勝)技師 履手

福野 永口(勝)技師 履手

福野 永口(勝)技師 履手

福野 永口(勝)技師 履手

野口 嘱託

加来 技師

平林 履

八坂 履

波江 野技師

栗原 技師

石川 履手

昭和十六年

昭和十六年

昭和十六年

昭和十七年

昭和十六年

昭和十六年

昭和十六年

昭和十六年

昭和十六年

昭和十六年

昭和十六年

自五月二十八日至六月二十一日

自六月二十四日至七月二十四日

自八月十一日至九月十一日

自二月十四日至三月十四日

自九月二十三日

自九月二十九日

自九月九日

自十一月十八日

自十二月十三日

自十二月十五日

自三月二十二日至三月二十九日

(調査地)

二、油田探査

(探鉾法)

(調査員)

(野外調査期間)

山形県 飽海郡

地震探鉱

古沢 技手

昭和十六年

自十二月三十一日

伊藤 技手

昭和十六年

自七月三十一日

山崎 職工

昭和十六年

自七月三十一日

西川 技師

昭和十六年

自六月二十六日

白土 技手

昭和十六年

自六月二十五日

半井 技手

昭和十六年

自六月二十七日

古沢 技手

昭和十六年

自六月二十七日

下沢 技手

昭和十六年

自六月二十七日

勝山 職工

昭和十六年

自五月二十七日

飯田 技師

昭和十六年

自五月十四日

直井 技手

昭和十六年

自八月二日

竹野 技手

昭和十六年

自八月二日

新潟県 頸城郡

地震探鉱

保科 職工

昭和十六年

自七月二十八日

杉山 職工

昭和十六年

自七月十四日

大滝 職工

昭和十六年

自八月二日

三、特別探查

(調 査 地)

(探 査 法)

(調 査 員)

(野 外 調 査 期 間)

新潟県 中頸城郡

重力探査

村上技師  
田中履

昭和十六年

自九月二十二日至十二月十九日

山形県 鮎海郡

重力探査

松淵元技師

昭和十六年

自七月六日至九月九日

中华民国山西省繁峙县 (鉛鉄)

電気探査

淵田勝技師

昭和十六年

自十月三十一日至十一月一日

朝鮮忠清北道、慶尙北道聞慶鉄山

磁気探査

佐藤藤技師

昭和十六年

自八月二十二日至九月二十二日

中华民国安徽省涂县破山口 (銅鉄)  
中华民国安徽省当塗县南山 (黄鉄鉄)  
中华民国安徽省铜陵县官山 (黄鉄鉄)

電気探査

紺野野技師  
室田野技師  
渡辺野技師

昭和十六年

自十月二十四日至十一月二十四日

中华民国河南省臨城炭田

地震探査

飯田井田技師  
竹田井田技師  
杉野山技師  
大柴野山履

昭和十六年

自二月七日至四月七日

四、試

錐

(試 地)	(深 度)	(箇數)	(作業員)	(作 業 期 間)
福島県南会津郡 大宮鉾山第五号	五二・五米	—	小林 職工 (紺野技師調査)	昭和十六年 自四月二十八日 至六月二十七日
福島県南会津郡 大宮鉾山第六号	六〇・〇米	—	小林 職工 (佐藤技師調査)	昭和十六年 自六月二十八日 至九月八日
福島県南会津郡 大宮鉾山第七号	五一・〇米	—		
群馬県利根郡 大道鉾山第一号	六〇・〇米	—		
群馬県利根郡 大道鉾山第二号	一〇〇・〇米	—		
島根県簸川郡 鶴峠鉾山第一号	六〇・〇米	—		
島根県簸川郡 鶴峠鉾山第二号	四五・〇米	—		
島根県簸川郡 鶴峠鉾山第三号	七〇・〇米	—		
島根県簸川郡 鶴峠鉾山第四号	六〇・〇米	—		
島根県簸川郡 鶴峠鉾山第五号	六〇・〇米	—		

四、測量及製圖 (第五部担当)

(甲) 測 量

一、図幅調査二伴フ測量

本年度ニ於テハ図幅調査二伴フ測量ハ之ヲ行ハス。

## 二、地質鉦床調査ニ伴フ測量

本年度ニ於テ施行シタル地質鉦床調査ニ伴フ測量ハ左ノ如シ。

(測量地名)	(測量員)	(外業期間)	(記事)
群馬県吾妻郡東六合鉦山	芦沢 技手 杉崎 扇手	昭和十六年 自五月九日 至六月七日	斎藤技師ノ調査ニ伴フ
兵庫県朝来郡但馬鉦山	和田 技手	昭和十六年 自七月三十一日 至七月三十一日	斎藤技師ノ調査ニ伴フ
中華民國山東省青島特別市	森 技手	昭和十六年 自八月三十一日 至八月三十一日	岩生技師ノ受託調査ニ伴フ
中華民國河北省昌平縣	山下 技手	昭和十六年 自八月二十九日 至八月二十九日	田中技師ノ受託調査ニ伴フ
群馬県吾妻郡東六合鉦山	加々美 技手	昭和十六年 自九月十五日 至九月十五日	斎藤技師ノ調査ニ伴フ
福岡県田川郡赤村	杉崎 技手	昭和十六年 自十月二十六日 至十月二十五日	片山(信)技師ノ受託調査ニ伴フ
千葉県安房郡鴨川鉦山	鈴木(昇) 技手 小川(技) 技手 加藤(技) 技手 鈴木(昇) 技手 森岡(保) 扇手 大久保 扇手	昭和十六年 自十二月三十一日 至十二月二十四日 昭和十七年 自二月十一日 至三月七日	

## 三、燃料地質調査ニ伴フ測量

本年度ニ於テ施行シタル燃料地質調査ニ伴フ測量ハ左ノ如シ。



(測量地、名)

北海道杵臼油田

(測量員)

山田技手  
一木丸技手  
履

(外業期間)

昭和十六年  
自八月二十日  
至八月二十日

竹原技師ノ調査ニ伴フ

北海道豊油田北部

鈴木(正)技手  
磯技手  
履

昭和十六年  
自六月十六日  
至六月十六日

片山(勝)技師ノ調査ニ伴フ

北海道宗谷郡猿払村浅茅野炭田

中沢技手  
中沢技手  
履

昭和十六年  
自七月十三日  
至七月十三日

片山(勝)技師ノ受託調査ニ伴フ

新潟県頸城郡油田西部

小松技手  
橋本技手  
履

昭和十六年  
自七月二十五日  
至七月二十五日

池辺技師ノ調査ニ伴フ

河北省臨城炭田  
山東省禹村炭田

鈴木(昇)技手  
菅沼履  
履

昭和十六年  
自六月十九日  
至六月十九日

松沢技師ノ受託調査ニ伴フ

新潟県南魚沼郡塩沢油田

堀本技手  
吉田履  
履

昭和十六年  
自八月十五日  
至八月十五日

松沢技師ノ受託調査ニ伴フ

小松技手  
一丸履  
履

昭和十六年  
自九月十五日  
至九月十五日

(記事)

新潟県北蒲原郡黒川油田

村上履  
磯上  
技手

昭和十六年  
昭和十六年  
昭和十六年  
自九月十二日  
自十月十八日  
自十一月十二日

#### 四、物理探査ニ伴フ測査

本年度ニ於テ施行シタル物理探査ニ伴フ測量ハ左ノ如シ。

(測量地名)

兵庫県宍粟郡高野鉾山

島根県鹿足郡津和野鉾山

山形県南村山郡赤山鉾山  
岩手県和賀郡柳沢鉾山

群馬県利根郡、吾妻郡大道鉾山

奈良県吉野郡川股鉾山

新潟県中頸城郡

福島県双葉郡富岡鉾山

北海道札幌郡、空知郡、夕張郡

(測量員)

和田技手

茅山技手

鉄羅技手

山下(章)技手

宮沢技手

徳蔵技手

堀本技手

小川技手

(外業期間)

昭和十六年  
自四月二十八日  
至四月二十八日

昭和十六年  
自四月二十九日  
至四月二十九日

昭和十六年  
自五月十八日  
至五月二十四日

昭和十六年  
自五月二十一日  
至五月二十一日

昭和十六年  
自七月十六日  
至七月十六日

昭和十六年  
自八月二日  
至八月二日

昭和十六年  
自六月十一日  
至七月九日

昭和十六年  
自六月三十日  
至十月二十七日

(記事)

村上技師ノ調査ニ伴フ

淵田技師ノ調査ニ伴フ

福永技師ノ調査ニ伴フ

佐藤技師ノ調査ニ伴フ

服部技師ノ調査ニ伴フ

飯田技師ノ調査ニ伴フ

佐藤技師ノ調査ニ伴フ

西川技師ノ調査ニ伴フ

山形県飽海郡

新潟県中頸城郡

青森県下北郡大正鉾山

岡山県久米郡坪井鉾山

朝鮮 忠清北道 閔慶鉾山  
慶尙北道 閔慶鉾山

福島県高玉鉾山、赤羽根鉾山、  
静岡県湯ヶ島鉾山、蓮台寺鉾山、  
福岡県星野鉾山、大分県宇佐鉾山、  
山、鹿兒島県串木野鉾山、春日  
鉾山、東鉾山

新潟県中頸城郡

中華民國 山西省繁峙県  
河北省滹県

中華民國 河北省臨城炭田  
河南省六河溝炭田

山形県飽海郡

野口 技手

昭和十六年 自九月六日 至九月九日

淵田技師ノ調査ニ伴フ

藤本 技手

昭和十六年 自九月十九日 至九月二十五日

村上技師ノ調査ニ伴フ

芦沢 技手

昭和十六年 自七月二十五日 至八月二十五日

紺野技師ノ調査ニ伴フ

山中 履

昭和十六年 自八月五日 至八月二十五日

加藤 技手

昭和十六年 自八月十一日 至八月十一日

福永技師ノ調査ニ伴フ

細井 履

昭和十六年 自八月二十一日 至八月二十一日

篠木 技手

昭和十六年 自八月二十二日 至八月二十二日

佐藤技師ノ受託調査ニ伴フ

窪木 技手

昭和十六年 自九月九日 至九月九日

加来技師ノ調査ニ伴フ

山田 技手

昭和十六年 自九月二十六日 至九月二十六日

村上技師ノ調査ニ伴フ

野口 技手

昭和十六年 自十一月三十一日 至十一月三十一日

淵田技師ノ受託調査ニ伴フ

宮沢 技手

昭和十六年 自二月七日 至二月七日

飯田技師ノ受託調査ニ伴フ

高嶺 履

昭和十六年 自三月三十一日 至三月三十一日

波江野技師ノ調査ニ伴フ

小松 技手

昭和十六年 自十一月三十日 至十一月三十日



山形北	小部	船津	塩原
	本	津	原
	小	秋	相
	宮	野	見
	山	技	技
	技	技	技
	手	手	手
	手	手	手
	本年度着手	本年度着手	昭和十四年度着手
	本年度未完成情况	本年度未完成情况	本年度未完成情况

二、地質鉱床圖

塩原	鬼首	兵庫 兵庫 但馬 鉄山 地質 其他
(名)	(名)	(名)
至自 五五分 一分一	至自 五五分 一分一	至自 二十分 一分一
(縮尺)	(縮尺)	(縮尺)
其坑 内床 他	其坑 内床 他	其坑 内床 他
(種類)	(種類)	(種類)
一三四 一四八	一三 一一	四七
(員數)	(員數)	(員數)
菅間 囀託 技手、 小島 履、 淺	秋野 囀託、 吉見 履	技手 菅間、 草深、 山下、 高木、 履、 安室、 小島、 吉見、 囀託、 淺岡
(製圖員)	(製圖員)	(製圖員)
昭和十五年着手	昭和十五年着手	本年度着手
本年度完成	本年度完成	本年度完成
(記事)	(記事)	(記事)

三、油田地形及地質圖(燃料)

郷津 油田
(名)
二万 分ノ一
(縮尺)
一
(員數)
森 技手、 茅山 技手、 山下 技手、 鈴木 技手、 安室 履
(製圖員)
本年度着手
本年度完成
(記事)

八石 油田	二万分ノ一	一	久松技手、宮沢技手、中沢技手、安室履	本年度着手	本年度未完成
熱河省跳兒溝蘆油地々質図其他	自五百分ノ一 至五百分ノ一	七	萱間技手、安宮履、吉見履	本年度着手	本年度完成
山西省柳泉炭磁坑内図其他	自六百分ノ一 至五百分ノ一	一六	萱間技手、草深技手、山下技手、安室履、浅岡囀託	本年度着手	本年度完成
千葉県茂原天然瓦斯濃度図其他	自百分ノ一 至五百分ノ一	六	山下技手、草深技手、吉見履、小島履	本年度着手	本年度完成

#### 四、物理探鉱図

(図 名)	(縮 尺)	(員數)	(製 図 員)	(記 事)
新潟県西蒲原郡赤塚地内重力探査図其他	百分ノ一	三	萱間技手、吉見履、小島履	本年度着手 本年度完成

#### 五、特別製図

(図 名)	(縮 尺)	(員數)	(製 図 員)	(記 事)
南方白図其他	自五十万分ノ一 至二百五十万分ノ一	二四	萱間技手、草深技手、高木技手、山下技手、鈴木技手、安室履、小島履、吉見履、浅岡囀託	本年度着手 本年度完成
千島調査行程図其他	自百分ノ一 至二十万分ノ一	四〇	萱間技手、草深技手、浅岡囀託	本年度着手 本年度完成
山西省大同炭田地質図(複製)其他	自二百五分ノ一 至二十万分ノ一	四三	神村技手外一三人	本年度着手 本年度完成

六、製図参考資料調査

(調査地)

(調査員)

(外業期間)

(記事)

宮崎県  
愛媛県

萱間技手  
山下技手

昭和十七年  
昭和十七年  
自二月十六日  
自二月二十五日  
至二月二十一日  
至二月二十二日

西臼杵郡戸川岳石灰岩地域へ出張  
喜多郡電気探鉱出張

五、分析及品質試験 (第六部担当)

一、分析試験

本年度ニ於ケル分析品目、個数、成分検定数細別左表ノ如シ。

(品名)	(個数)	(成分検定数)	(品名)	(個数)	(成分検定数)
岩石	四一	二二四	ニツケル鉱	一四二	二八八
螢石	一八	三四	コバルト鉱	二三二	二四七
加里鉱石	七〇	一〇三	マンガン鉱	五〇	一八四
石灰岩	二	八	重水鉛鉱	二五	一四五
ボーキサイト	一〇	二八	ストロンシウム鉱	二	二

石綿	二五	二〇〇	鈦	三七	一〇三
鈦物	四	一八	硫黃	一九	一九
金銀	六六	一三八	石炭	六六	三九一
銅	二四	七〇	原油	二	三六
鉛	九一	三五一	天然瓦	二〇	二〇
銻	一五〇	七三八	計	一一五三	三九九八
鐵	七	五〇	天		
鈦			然		
			瓦		
			斯		
			砂		

二、特別試験

日本標準規格分析方法制定ノ為アルミニウム地金、マグネシウム地金ニ就テ、又鈦産物分析法協議会ニ於ケル分析方法制定ノ為粗銅、タングステン鈦及モリブデン鈦ニ就テ研究分析ヲ行ヘリ。

三、特別調査

本年度ニ於ケル出張調査件名等左ノ如シ。

(調査件名)	(府県名)	(出張員)	(外業期間)	(記事)
鈦産物分析法協議会	大阪、和歌山	平塚技師	昭和十六年自五月十三日至五月二十三日	兼子技師ノ調査ニ伴フ
天然瓦斯	千葉	磯野技手	昭和十六年自五月十七日	



天然瓦斯	天然瓦斯	天然瓦斯	天然瓦斯
秋田	滋賀	大阪、京都	福岡
磯野 技手	齋藤 技手	平塚 技師	石塚 技師
昭和十六年 自六月二十六日	昭和十六年 自七月十五日	昭和十六年 自九月二十四日	昭和十七年 自一月二十七日
兼子技師ノ調査ニ伴フ	兼子技師ノ調査ニ伴フ		

### 六、報告 会

本年度ニ於ケル報告会ハ二十三回開催シ、各技術官担当業務ニ就キ報告ヲ為シ、討議研究セリ。

### 七、庶務 及 会計 (庶務課担当)

#### 一、職 員

本年度中ニ於ケル職員ノ異動左ノ如シ。

#### 任 官

地質調査所技師	森島 正夫	同	早川 典久	同	加来 一郎
兼商工技師	平塚 隆治	同	遠藤 六郎	同	堀 純郎

地質調査所技手

柏木重次郎

同

半井康博

同

関根節郎

同

伊藤毅

同

磯巳代次

同

杉崎七郎

同

中島豊

同

藤谷吉三

同

菅福久

同

広川治

同

桑田士郎

同

杉山友紀

同

草深源三郎

同

高木二郎

同

高嶺巖

同

広沢経夫

同

松尾治三郎

転任

任九州帝国大学  
助教

野口高

任興亜院技師

廣部竜一

任九州帝国大学  
教授

吉村豊文

休職

地質調査所技手

梅沢邦臣

同

桑田士郎

同

広川治

定員外職員

附第二十野  
戦兵器廠

兼子勝

同

橋本克巳

附第二南遣  
艦隊司令部

別所文吉

附第一〇一  
海軍燃料廠

竹原平一

附第二十野  
戦兵器廠

篠木安雄

同

藤本辨蔵

附第二南遣  
艦隊司令部

磯巳代次

附第一〇一  
海軍燃料廠

中沢次男

退官

地質調査所技師

森島正夫

地質調査所技手

藤原健一

同

大島敬義

同

田村清一

同

鈴木正一

同

大津光

同 梅沢邦臣  
死 亡

地質調査所技手  
(戦病死) 各務美信 同 中島 豊

嘱 託

理 学 士 沢田秀穂 九州帝国大学 助教 野口 高 文学 士 関口俊太

解 嘱

理 学 士 沢田秀穂 理 学 士 阿部道起(死亡)

一、経 費

本年度ニ於ケル経費ハ地質調査所機構拡充、油田地質精査促進、鉄鉱及製鉄用鉱物資源調査、地質鉱床調査促進、等ニ要スル経費ヲ  
増加要求シ以テ事業ノ遂行ニ邁進セリ、即チ

経 常 部

地質調査 一〇六、五六九

俸 給 六二、五六九

事 業 費 四四、〇〇〇

臨 時 部

油田地質精査

俸 給

事業 費

地質鉦床調査

俸 給

事業 費

鉄鉦及製鉄用鉦物資源調査

俸 給

事業 費

鉦床水脈受託調査

俸 給

事業 費

二二、九一六  
一七一、一七五

六六、三七一

一九六、〇四七

七二、七九五

一四、五九五

五八、二〇〇

五、八六四

五、四三二

四三二

以上

三、出版 物

地質調査所報告

第一二四号

昭和十五年度事業報告

物理探鉦調査報告

第一号

秋田県旭鉦山並二小割沢鉦山電気探鉦調査報告

地質調査所長 山 根 新 次

商工技師 植村 癸巳男

岩手県出羽沢鉾山電気探鉾調査報告

秋田県吉乃鉾山電気及地震探鉾調査報告

商工技師 紺野芳雄

商工技師 波江野清蔵

同 野口高

同 紺野芳雄

第二号

秋田県雄物川油田電気及地震探鉾調査報告

商工技師 野口高

同 波江野清蔵

同 紺野芳雄

秋田県能代油田南西部電気及地震探鉾調査報告

商工技師 野口高

同 波江野清蔵

同 紺野芳雄

新潟県大口油田電気及地震探鉾調査報告

商工技師 野口高

同 波江野清蔵

第三号

秋田県吉乃鉾山電気探鉾調査報告 (続報)

商工技師 野口高

青森県高森鉾山電気探鉾調査報告

北海道国富鉾山電気探鉾調査報告

地質調査所輯報

第一号

中国勝山附近のスラストに就て

岡山県真庭郡美甘村大所橋に於ける露出及び二三の觀察に就て

魚沼統の貝化石群

青森県釜ヶ沢油田調査概報

宮崎市郊外の所謂石油露頭の調査報告

滋賀県琵琶湖岸天然瓦斯に就て

石英質鉾脈の電気探鉾概報(昭和十五年度)

福島県大宮鉾山に於ける電気探鉾及び試錐

商工技師 野口高

商工技師 野口高

技師 山田節三

技師 山田節三

技師 池辺展生

技師 八木次男

技師 八木次男

技師 兼子勝

技師 野口高

技師 紺野芳雄

層の傾斜が一樣ならざる場合の走時曲線解析法

地震探鉱法に於ける傾斜層の見掛速度

金門島産魚須土からコバルト抽出試験

群馬県群馬郡金島村某特別訓練所予定地附近地下水調査報告

技 師 飯 田 汲 事

技 師 波 江 野 清 藏

技 師 平 塚 隆 治

技 師 近 藤 信 興

四、文 庫

本年度ニ於テ交換先ノ官庁、大学、学会、会社等ヨリ図書ノ寄贈アリタルハ六十四箇処ニテ受入図書数左ノ如シ。

	(交 換 先)	(箇 処 数)	(受 入 図 書 報 文 類)
官 庁	官 庁	一九	一三八
大 学、学 会、図 書 館 等	大 学、学 会、図 書 館 等	四三	三八七
会 社	社	二	一四
計		六四	五三九

交換先以外ノ官庁、大学、学会、会社等ヨリ図書ノ寄贈ヲ受ケタルモノ二十七箇処、又好意ニヨリ貴重ナル図書ヲ個人ヨリ寄贈セラレタルモノ十四件アリ、誠ニ感謝ニ堪ヘサルトコロナリ

(寄贈先)

(箇処数)

(受入図書)

官 庁  
大 学、学 会、図 書 館 等  
会 社  
個 人

計

一八八  
一四一  
四一

(地質図)	一	四	二	一	五
(地形図)	一	二	二	二	四
(報文類)	五八	一七八	二	三二三	五五一

就中左記ハ特ニ多数ノ有益ナル図書ヲ寄贈セラレタルモノニシテ茲ニ芳名ヲ録シ厚ク謝意ヲ表スルモノナリ

滿洲地質見学旅行案内書全八冊

地質要報明治二十年第一号外三十七点

北樺太石油利権史外五点

地質彙報第五卷ノ二外百八十六点

Laarboek van het Mijneuzen in Ned. Oost-Indie 1900 外二十六点

矢部教授選歴記念論文集第二卷外一点

最新仏領印度支那精図

昭和十四年版南洋群島要覽

北支鉄鉱、硫黄鉱資源

「ヴィナス」自創刊号至第八卷第二号合計三十八冊

小川琢治遺著一地理学者之生涯

雲

朝鮮産硼素鉱物小藤石に就いて

外国ヨリ図書ノ寄贈ヲ受ケタルハ亜細亞、濠洲、阿弗利加、歐羅巴、南北阿米利加等ノ地質調査所及大学、学会、図書館等ノ交換先  
四十二箇処、交換先以外ノ寄贈先五箇処個人一件ニシテ、コソ受入図書数ハ左ニ示スカ如シ

金原均	二
小寺房次郎	二
山根新次	二
参謀本部第二部	二
三土知芳	二
矢部長克	二
南支調査会	二
岩生周一	二
門倉恒子	二
中村精二	二
小川芳樹	二
藤原咲平	二
渡辺武男	二





五、鉦物陳列館

左ニ本年度中ニ於ケル所員以外ヨリノ寄贈標本及寄贈者芳名ヲ録シテ謝意ヲ表セン

(鉦物名)

(産地)

(地)

(寄贈者)

紅	柱	石	平安北道義州郡古城面	船	橋	重	次
綠	鉛	鉦	慶尙南道東萊郡大竜里	大	井	上	義近
白	鉛	鉦	同	同			
紅	電	氣	福岡県糸島郡今宿村長垂	木	下	龜	城
銅	ウ	ラン	同	同			
雲	母		アルゼンチナ	堀	内	鉄	雄
石	綿		長崎県西彼杵郡蚊焼村榮上	敦賀大進石綿株式会社			

地質調査所職員

(昭和十七年三月末現在)

技師長

山根新次  
第一部

部事務取扱  
技師

山根新次

技師 田中元之進

技師 近藤信興

技師兼  
北帝園大  
学助教

河野義礼

技師 松沢勲

技師 千藤忠昌

技師	山田 薊三	技師	早川 典久
兼務技師	柏木 重次郎	兼務技師	金原 均二
兼務技師	鈴木 達夫	兼務技師	岩生 周一
兼務技師	池辺 展生		

第二部

部師兼院長	石井 清彦	技師	別所 文吉
技師	片山 信夫	技師	岩生 周一
技師	堀 純郎	技師	宮本 弘道

兼務技師	桑田 士郎	技師	廣川 治
兼務技師	鈴木 達夫	兼務技師	八木 次男
囑託	関口 俊太	兼務技師	紺野 芳雄

第三部

部師兼局長	三土 知芳	技師	八木 次男
技師	竹原 平一	技師	橋本 克巳
技師	池辺 展生	技師	兼子 勝

兼務技師	松沢 勲	技師	片山 勝
囑託	河田 五郎		

第四部

部師長	波江野 清藏	技師	服部 信一
		技師	紺野 芳雄

第五部

技	技	技	技	技	技	技	技	技	技部
手	手	手	手	手	手	手	手	手	師長
窪木時雨郎	徳藏勝治	堀本健次	山下脩二	小川晴男	萱間泰雄	鈴木直昇	小松直蔵	米谷菊太郎	鈴木達夫

嘱	兼務技師	技	技	技	技	技	技	技	技	技
託	師	手	手	手	手	手	手	手	師	師
松沢武雄	八木次男	伊藤毅	松尾治三郎	蟻川親治	金井光明	松元重人	室住正義	栗原重利	村上義朗	淵田隆門

技	技	技	技	技	技	技	技	技	技
手	手	手	手	手	手	手	手	手	手
宮沢芳紀	藤本辨蔵	鉄羅和夫	金子政利	野口保夫	水野初夫	芦沢文夫	山田千稻	笹原栄雄	神村竜造

嘱	兼務技師	技	技	技	技	技	技	技	技
託	師	手	手	手	手	手	手	師	師
野口高勝	兼子勝	広沢経夫	渡辺光樹	金子純	古沢実	白土忠	直井正作	飯田汲事	西川与志男

技	技	技	技	技	技	技	技	技	技
手	手	手	手	手	手	手	手	手	手
和田政男	鈴木俊郎	橋本与太郎	篠木安雄	加々美時寛	山下章	森守之助	秋野梅太郎	小宮山湛	相見角治

兼務技師	技	技	技	技	技	技	技	技	技
片山信夫	手	手	手	手	手	手	手	師	師
	半井康博	杉山友紀	井上忠行	野口勝	竹田民英	菅福久	福永三郎	佐藤光之助	



# 地質調査所報告 第二百二十五号 (昭和十九年十二月)

(昭和十七年度事業報告)

## 目次

一、地質鉞床調査(第一部、第二部担当).....	一頁
一 図幅地質調査.....	一頁
二 図幅鉞床調査.....	二頁
三 鉄鉞調査.....	三頁
四 特別調査(官氏受託ヲ含ム).....	三頁
二、燃料地質調査(第三部担当).....	五頁
一 油田地質精査.....	五頁
二 特別調査(官氏受託ヲ含ム).....	六頁
三 試錐調査.....	七頁
三、物理探鉞及試錐(第四部担当).....	七頁
一 鉞床探査.....	七頁
二 油田探査.....	九頁
三 炭田探査.....	一〇頁
四 特別探査.....	一〇頁
五 試錐.....	一一頁
四、測量及製図(第五部担当).....	一一頁
(甲) 測 量.....	一一頁

一	図幅調査ニ伴フ測量	一頁
二	地質鉞床調査ニ伴フ測量	一頁
三	燃料地質調査ニ伴フ測量	二頁
四	物理探査ニ伴フ測量	二頁
	(乙) 製 図	
一	図 幅	四頁
二	地質鉞床図	一五頁
三	油田地形及地質図	一五頁
四	物理探査図	一六頁
五	特別製 図	一六頁
六	製図參考資料調査	一七頁
	五、分析及品質試験(第六部担当)	一七頁
一	分析試験	一七頁
二	特別試験	一八頁
三	特別調査	一九頁
	六、庶務及會計(庶務課担当)	一九頁
一	職 員	二〇頁
二	経 費	二一頁
三	出 版 物	二二頁
四	文 庫	二五頁

# 昭和十七年度事業報告

地質調査所長 山根新次

職局ノ進展ニ伴ヒ、本所ノ事業益々緊急重要性ヲ加ヘ、本所職員ハ国内ニ於ケル地下資源開發調査ハ固ヨリ、大陸ニ南方ニ進出活躍シ、不幸波江野、西川両技師ハ職ニ殉セラレタルモ幸ニ所期ノ成果ヲ挙グルヲ得タリ。

## 一、地質鉞床調査（第一部、第二部担当）

### 一、図幅地質調査

本調査ハ図幅地域ニ於ケル地質及鉞床ノ分布竝ニ地帯構造ヲ調査シ以テ地下資源ノ開發、基礎工業ノ發達等ニ資スルヲ目的トス  
本年度調査セル図幅ハ内業ヲ合セテ其數ハナリ、図幅名、調査員其他左表ノ如シ。

(図幅名)

(調査員)

(外業期間)

(成果ノ概要)

船津	近藤信興	前年	完了
釜石	河野義礼	昭和十七年	自八月七日至十二月九日
福知山	千藤忠昌	外業	未完了

図幅原図、説明書作製  
昭和十七年九月完成

外業未完

図幅原図、説明書作製中  
昭和十八年度完了ノ予定

調査済地域ノ資料整理  
昭和十八年度完了ノ予定



豐岡	早川典久	前年度完了
小本	宮本弘道	昭和十七年(自六月廿五日 至十月廿九日)
山形北部	別所文吉	外業未完了
脇町	平山健	昭和十七年(自八月十二日 至十二月十二日)

図幅原図完成、説明書作製中  
昭和十八年度完了ノ予定

外業未完  
昭和十八年度完了ノ予定

昭和十八年度完成ノ予定

外業未完、図幅原図説明書作製中  
昭和十八年度完成ノ予定

二、図幅鉱床調査

本調査ハ図幅地域ニ於ケル鉱床ヲ調査シ鉱床ノ成因ヲ究メ鉱石ノ種類、品位及鉱量ヲ明カニシ以テ地下資源ノ根本指針タルベキヲ目的トス。

本年度実施セル図幅鉱床調査ハ内業ヲ合セテ其数五ナリ。図幅名、調査員其他左表ノ如シ。

勝間田	山田節三	昭和十七年(自八月十七日 至十二月二日)
釜石	河野義礼	昭和十七年(自八月七日 至十二月九日)
船津	近藤信興	前年度完了

(図幅名)

(調査員)

(外業期間)

(記 事)

精査鉱床ハ金、銀、鉛、亜鉛、蒼鉛、砒、石  
墨ヲ産スル神岡鉱山、天生鉱山(金)、吉城鉱  
山(金)、上宝鉱山(金銀)、稻越鉱山(鉄)、神  
通鉱山(鉄)其他十九鉱山ナリ  
報告書ハ昭和十七年九月完成セリ

精査鉱床ハ釜石(鉄)、大峯(銅)ノ他、満庵ヲ  
産スル大谷山、大鷲、前川、吉里、阿石、金  
沢ノ諸鉱山、金ヲ産スル六黒見、釜石、辨天  
長者森ノ諸鉱山ナリ  
報告書ハ昭和十八年度完了ノ予定

精査鉱床ハ勝豊、勝英、瀬戸、金掘、小金、  
大弘、牛ノ子、成安、平福、千種、金谷、八  
幡他合計三十鉱山ナリ  
報告書ハ昭和十八年十二月完了ノ予定

脇 町	平 山 健	昭和十七年 自八月十二日 至十二月廿九日
小 本	宮 本 弘 道	昭和十七年 自六月廿五日 至十月廿九日

調査済鉱山ハ田老鉱山(含銅硫化鉄)、岩手炭  
 鉱(石炭及耐火粘土)、本銅鉱山(銅)、高峯  
 山(金)、三根鉱山(水鉛)、鳥越鉱山(滿掩)其  
 他滿掩金銅鉄床ニツキ五ヶ所ナリ。外業未了  
 ナルヲ以テ次年度継続  
 精査鉄床ハ含銅硫化鉄及滿掩鉄ニシテ久宗  
 高越、東山、白竜其他計十餘山ナリ  
 外業未完ナルヲ以テ次年度継続

### 三、鉄 鈹 調 査

本調査ハ昭和十六年度ヨリ実施セル事業ニシテ鉄鈹及ビ製鉄鋼用鈹物ノ国内資源ヲ速カニ探求シテ以ツテ開発ニ資スルヲ目的トス。  
 本年度ニ於ケル実施件数、調査員其他ハ左ノ如シ。

#### (調 査 件 名)

新潟、福井、兵庫、熊本、  
 高知、徳島、和歌山及京都  
 府下ノ製鉄用煉瓦珪石  
 製鉄用廻転爐内張耐火材  
 トシテノ朝鮮平安南道、  
 咸鏡南道ノ石英片岩

#### (調 査 員)

末 野 悌 六  
 平 山 健

#### (外 業 期 間)

昭和十六年 自十月十六日  
 至十一月廿四日  
 昭和十七年 自八月十二日  
 至十二月廿九日

#### (成 果 ノ 概 要)

製鉄用珪石煉瓦ノ主要原料タル赤白  
 珪石ノ成因ヲ明カニシテノ開発ニツ  
 キテ指導セリ  
 粒鉄製造、廻転爐内張トシテ独逸産  
 石英片岩ト同等ノ性質ノモノヲ調査  
 シテノ鈹量、品位ヲ明カニセリ

### 四、特別調査(官民受託ヲ含ム)

本調査ハ凶幅調査、凶幅鉄床調査以外ニ於テ緊急ト認メタル調査事項ニ就キ急速ナル調査ヲ施行シ地下資源ノ開発ヲ一層円滑ナラシ  
 ムルヲ以テ目的トス。尙官民ヨリ申請セル受託調査ヲモ含ムモノトス。  
 本年度実施セル調査件数其他左表ノ如シ。

(調査件名)

宮城県砂金鉱山銅  
鉱床調査

蒙疆烏珠穆沁炭田  
調査

蒙疆上花園炭田調  
査

埼玉県入間郡毛呂  
山町字滝ノ入西武  
ニツケル鉱業所

福島県石川郡狸森  
紅柱石鉱床

北海道日高国及ビ  
胆振国格魯護鉱床

広島県勝光山地方  
ノ明礬石鉱床

高根県鹿足郡木部  
村不動鉱山銅鉱床

鳥取県 若松鉱山  
山口県 長登鉱山  
山口県 香部鉱山

(調査員)

田中元之進

田中元之進

田中元之進

田中元之進

末野 悌 六

堀 純 郎

片山 信 夫

片山 信 夫

川崎 一 齊

(外 業 期 間)

昭和十七年 自七月十日  
至七月十八日

昭和十七年 自八月十日  
至十二月廿一日

昭和十七年 自八月十日  
至十二月廿一日

昭和十八年 自二月廿五日  
至二月廿八日

昭和十八年 自三月十一日  
至三月十四日

昭和十七年 自六月六日  
至九月廿八日

昭和十七年 自七月十五日  
至八月十日

昭和十七年 自九月十一日  
至九月十五日

昭和十七年 自九月十八日  
至十月一日

(成 果 ノ 概 要)

砂金銅山ノ残鉱賦存状態ヲ明カニシ、今後ノ  
採鉱及ビ探鉱方針ニツキ指導スル所アリタリ  
受託調査(川畑敏二申請)

炭田地域ヲ精査シ、炭田賦存状態ヲ明カニシ  
且ツ埋蔵量並ニ炭質ヲ明確ニシ探掘方針ニツ  
キ指導セリ受託調査(興亜院囑託)

下花園炭田並ニ上花園炭田ニ亘ル地域ヲ調査  
シ炭田ノ分布範圍ヲ予察シ且ツ炭質ヲ明カニ  
シ探鉱及ビ探鉱方針ニツキ指導セリ受託調査  
(興亜院囑託)

鉱区並ニ其ノ四辺ヲ調査シ鉱床分布並ニ鉱量  
ヲ算出シ、且ツニツケル及ビコバルトノ品位  
並ニ原石ノ耐火度ヲ明カニシ今後ノ活用方面  
及ビ探鉱方針ヲ指導セリ

鉱床ノ賦存状態及ビ鉱量ヲ明カニシ、稼行方  
針ニツキテ指導セリ

区域内ノ糠平、木村、日高、八田、日東、本  
倉、其他合計二十ノ格魯護鉱床及ビ附近ノ地  
質鉱床ヲ調査シ併セテ区域内ニ存スル北海ニ  
ツケル及ビ右左府石綿ノ両鉱山ヲ調査シ増産  
ニ資セリ

焙燒加里肥料原鉱トシテノ明礬石ノ鉱量及ビ  
平均品位ヲ明カニシテ、開発ニ資セリ

採鉱方針ニツキテ指導スル所アリタリ

鉱床賦存状態ヲ明カニシテ増産方針ニツキテ  
寄与スル所アリタリ

北海道北見国留辺  
 藁町イトムカ水銀  
 鉾山及置戸町置戸  
 水銀鉾山、岩手県  
 上閉伊郡蛭子館水  
 銀鉾山

静岡県賀茂郡仁科  
 村白川鉾山明礬石

岩生周一

昭和十七年 自九月卅日  
 至十月二十日

片山信夫

昭和十八年 自一月四日  
 至一月廿三日

上記各鉾山ニオケル各品位ノ鉾石ノ鉾量ヲ明  
 カニシ採鉾方針ニツキテ指導シ開発ヲ促進セ  
 リ

加里及ビアルミ原鉾トシテノ明礬石ノ新鉾床  
 ヲ調査シ、鉾量及ビ鉾床ノ形態ヲ明カニシ、  
 開発ノ基礎トセリ

以上ノ外石井清彦技師ハ長野県食塩泉ニ就キ調査シ、岩生周一技師ハ時局要員養成ノタメ福島、茨城、栃木県下ニ於テ指導ヲナシ、  
 末野悌六技師ハ茨城県下ノ過塩基性岩及ビ熊本県下ノ「ニツケル」鉾床ニツキテ調査セリ。

昭和十七年七月十七日ヨリ昭和十八年三月二十一日マデノ期間ニ於テ紺野芳雄技師、別所文吉技師、千藤忠昌技師、早川典久技師ハ  
 海軍囑託トシテ占領地区ニ於ケル応急資源調査ニ従事セリ。

## 二、燃料地質調査 (第三部担当)

### 一、油田地質調査

本調査ハ地質ヲ精査シ以テ石油ノ集積ニ適當ナル地質構造ヲ探査スルヲ目的トシ、試掘ノ位置及ビ其深度ノ撰定ニ資セントスルモノ  
 ニシテ本年度ニ於テハ人員ノ關係上左ノ一地区ニ就キ之ガ調査ヲ実施シ下記ノ成果ヲ得タリ。

(油田名)

(調査員)

(外業期間)

(成果概要)

新潟県黒川油田

片山(勝)技師

昭和十七年 自十二月十五日  
 至十二月廿五日

黒川油田一部ノ層位及ビ構造ヲ詳ニシ、将来  
 ノ試掘ノ位置及深度ヲ決定セリ。本油田ノ精  
 査ニ関シテハ更ニ明年年度継続ノ予定ナリ

## 二、特別調査

本調査ハ油田地質調査以外ニ特ニ必要ニ応ジ石油、天然瓦斯、石炭、地下水ニ関スル調査ヲ施行スルモノニシテ、官民ノ申請ニ係ル受託調査ヲ含ム。

(調査件名)

(調査員)

(外業期間)

(成果概要)

(備考)

蒙疆張家口附近工業用水調査

三土 技師

昭和十七年 自五月九日 至七月十一日

張家口附近ノ地下水ヲ調査シ清水供給ノ計劃ヲ樹立セリ

興亜院囑託

秋田県由利郡道川村試錐地調査

片山(勝) 技師

昭和十七年 自六月廿一日 至六月廿六日

試錐予定地ヲ調査シ適當ナル地域ノ無キヲ認メタリ

新潟県刈羽郡田尻村試錐地調査

片山(勝) 技師

昭和十七年 自七月十六日 至七月十九日

試錐調査ノ項参照

長野県下伊那郡鹿塩村附近塩泉調査

片山(勝) 技師

昭和十七年 自七月廿二日 至八月八日

塩泉ノ湧出スル地域ノ地質並ニ塩泉調査ヲ実施シ塩泉利用ノ適否ヲ判定セリ

中華民国山西省太原西山炭田、山東省新泰炭田、河北省磁畷炭田調査

松沢 技師

自昭和十七年 九月二十日 至昭和十八年 三月二十四日

炭田地域ヲ調査シ炭田賦存区域及炭層數ヲ明カニシ且埋蔵量及炭質ヲ明確ニシ、開發方針ニ就キ指導セリ

受託  
北支開發株式  
会社申請

新潟県刈羽郡田尻村試錐地調査

片山(勝) 技師

昭和十七年 自九月七日 至九月十四日

試錐調査ノ項参照

新潟県刈羽郡田尻村試錐地調査

片山(勝) 技師

昭和十七年 自十月廿二日 至十月廿五日

試錐調査ノ項参照

静岡県志太郡焼津町附近天然瓦斯調査

片山(勝) 技師

昭和十八年 自二月廿六日 至二月九日

天然瓦斯ノ賦存状態及採取状況ニ就キ調査シ開發方針ニ就キ指導セリ

三土 技師

昭和十八年 自二月二日 至二月二日

片山技師ノ調査ヲ指導ス

以上ノ外片山勝技師ハ時局要員養成所講習生ノ指導ノ為新潟県、福島県及茨城県下ニ出張シ、八木技師、金原技師ハ海軍囑託トシテ南方地域ニ出張シ、南方資源応急調査(主トシテ石油、石炭)ニ従事セリ。

### 三、試錐調査

本試錐ハ深度普通三〇〇米ヲ掘鑿シテ地下地質標本ヲ採取シ、之ガ鑑定ニヨリテ該地域ノ地下地質構造ヲ推定シ、石油試錐位置及深度ノ撰定ニ資スルモノニシテ、本年度ニ於テ施行セル六個所ノ試錐施行地点及ビ其ノ成果概要等次ノ如シ。

(試錐地)

新潟県刈羽郡田尻村  
柏崎試錐 第三号

三〇〇米  
三〇〇米

(成果概要)

昭和十六年度ニ於テ施行セル柏崎試錐ノ第二号ノ東方ニ掘鑿シ、第三紀ノ地層ガ西方ニ緩漫ナル傾斜セルヲ認メタリ

新潟県刈羽郡田尻村  
柏崎試錐 第五号

三〇〇米

第四号ノ東方約七五〇米ニ位置シ、第三紀ノ地層ハ第四号ニ比較シ約三〇米沈降セル關係ニ在リ、即チ第四号附近ニ兩翼ノ傾斜角極メテ小ナル一背斜軸ノ存在セルヲ認メタリ

新潟県刈羽郡田尻村  
同試錐 第六号  
同試錐 第七号  
同試錐 第八号

三〇〇米  
三〇〇米  
三〇〇米

柏崎試錐第一号乃至第五号ノ線ヨリ大約一五〇〇米南方ニ東西方向ニ施行セリ  
第二号乃至第五号ノ試錐結果ニヨリ判明セル第三系ノ緩漫ナル背斜構造ハ是等三試錐地点ニ於テハ全体的ニ約七〇米隆起セルモ其褶曲状態ニ變化ナク地層ハ第七号附近ヲ頂部トシテ東西ニ極メテ低角度ヲ以テ傾斜セリ

### 三、物理探鉱及試錐(第四部担当)

本年度ニ於テ施行シタル物理探鉱及試錐左ノ如シ。

#### 一、鉱床探査

(調 査 地)

(探 鉱 法)

(調 査 員)

(野 外 調 査 期 間)

新潟県東蒲原郡西川鉱山

磁気探鉱

渡佐藤 技師

昭和十七年 自六月二十六日 至七月二十一日

朝鮮咸鏡南道北青郡北青鉱山

磁気探鉱

竹村 田上 技師

昭和十七年 自十二月十九日 至十二月二十九日

山口県玖珂郡生高鉱山

磁気探鉱

金松福 井本永 技師

昭和十八年 自二月十八日 至二月十八日

群馬県勢多郡利東鉱山

電気探鉱

八野福 口永 技師

昭和十七年 自九月二日 至九月二日

滋賀県高島郡朽木戸山

電気探鉱

小八福 永池 技師

昭和十七年 自十一月二十九日 至十二月二十九日

愛媛県宇和島市

電気探鉱

金古加 子沢来 技師

昭和十七年 自七月九日 至八月九日

山形県村山郡蔵王鉱山

電気探鉱

古 加 沢来 技師

昭和十七年 自八月二十五日 至八月二十五日

山口県玖珂郡生高鉱山

電気探鉱

市金加 子来 技師

昭和十七年 自十二月二十八日 至十二月二十八日

高知県土佐郡高川鉱山

電気探鉱

小野守 口屋池 技師

昭和十八年 自二月二十八日 至二月二十八日

福島県南会津郡大宮鉾山

電気探鉾

青森県下北郡安部城鉾山

電気探鉾

大分県下毛郡旭金山

電気探鉾

二、油田探査

秋田県南秋田郡

重力探鉾

新潟県刈羽郡

重力探鉾

秋田県南秋田郡

地震探鉾

室野川口住  
技師  
手

山  
口  
技師  
手

室野川口住  
技師  
手

野金野山  
口  
技師  
手

淵田井  
技師  
手

村上  
技師  
手

村沢  
技師  
手

西川  
技師  
手

半井  
技師  
手

川  
技師  
手

昭和十七年  
自至  
九月十九日  
至十月十一日

昭和十七年  
自至  
九月十八日  
至十月八日

昭和十七年  
自至  
九月十八日  
至十月八日

昭和十七年  
自至  
八月三十一日  
至八月三十一日

昭和十七年  
自至  
八月十一日  
至八月十一日

昭和十七年  
自至  
八月八日  
至八月八日

昭和十七年  
自至  
八月八日  
至八月八日

昭和十七年  
自至  
八月八日  
至八月八日

昭和十七年  
自至  
八月八日  
至八月八日

昭和十七年  
自至  
八月八日  
至八月八日



秋田 河 辺 郡

地震探査

勝市小  
森尾山 松持元土  
松尾山 土持元土  
白土 職 技技技技  
勝職 技技技技  
工履手手手手 工履履

昭和十七年 自七月二十五日  
昭和十七年 自十二月二十二日  
昭和十七年 自十二月二十二日

三、炭田探査

福岡 糟屋郡 西戸崎炭田

地震探査

波江野技師  
松尾元技  
松尾元技  
土持技  
森職  
工履手手

昭和十七年 自八月十八日  
昭和十七年 自八月十二日

四、特別探査

中華民國安徽省銅陵縣(鉄鉞)  
同 安徽省当塗縣(同)

磁氣探査  
重探 鉞鉞

佐藤技師  
渡辺技師

昭和十七年 自十一月十六日

中華民國河北省樂開樂炭田

同 山東省泰安縣禹村炭田

同 山東省寧陽縣磁窑炭田

地震探査

飯原田 技師  
栗山 技師  
伊藤 技師  
杉野 技師  
廣野 技師  
柴野 技師  
山崎 職  
工履手手手手

昭和十七年 自十二月十五日

五、試

錐

(試錐地)

(深度)

(箇數)

(作業員)

(作業期間)

岩手県和賀郡柳沢鉱山

(試錐地)	(深度)	(箇數)	(作業員)
第一号	四〇・〇米	—	小林職工 (福永技師調査)
第二号	五〇・四米	—	
第三号	七三・〇米	—	
第四号	八一・五米	—	
第五号	五四・〇米	—	

昭和十七年(自六月十九日至十二月四日)

四、測量及製図(第五部担当)

(甲) 測量

一、図幅調査三件フ測量

本年度ニ於テハ図幅調査三件フ測量ハ之ヲ行ハズ。

二、地質鉱床調査三件フ測量

本年度ニ於テ施行シタル地質鉱床調査三件フ測量ハ左ノ如シ。

(測量地名)

(測量員)

(作業期間)

(記事)

広島県比婆郡山内北村

加々美技手

昭和十七年(自七月十五日至八月四日)

片山(信)技師ノ調査三件フ

長野県伊那郡大鹿村	蘆沢技手	昭和十七年	自七月二十二日 至八月四日	片山(勝)技師ノ調査ニ伴フ
岡山県英田郡江見町	村上履	昭和十七年	自九月十八日 至十月十八日	山田技師ノ調査ニ伴フ
北海道北見国イトムカ釧山 岩手県上閉伊郡蛙子館釧山	吉田履	昭和十七年	自九月三十日 至十月三十日	岩生技師ノ調査ニ伴フ
静岡県賀茂郡仁科村	鉄羅技手	昭和十八年	自一月二十四日 至一月二十三日	片山(信)技師ノ調査ニ伴フ

### 三、燃料地質調査ニ伴フ測量

本年度ニ於テ施行シタル燃料地質調査ニ伴フ測量ハ左ノ如シ。

(測量地名)	(測量員)	(外業期間)	(記事)	
新潟県南魚沼郡塩沢油田	堀本技手	昭和十七年	自八月十七日 至八月十七日	
中華民国 河北省磁県炭田 同 山東省新泰炭田	和田技手	昭和十七年	自九月二十六日 至三月三十一日	松沢技師ノ受託調査ニ伴フ

### 四、物理探査ニ伴フ測量

本年度ニ於テ施行シタル物理探査ニ伴フ測量ハ左ノ如シ。

(測量地名)	(測量員)	(外業期間)	(記事)	
新潟県 柏崎油田	吉田履	昭和十七年	自五月十八日 至七月十八日	村上技師ノ調査ニ伴フ

新潟県東蒲原郡西川鉾山

愛媛県宇和島市旭村

中華民國 山東省禹村、磁縣各炭田  
同 河北省開樂炭田

秋田県秋田市附近

福岡県糟屋郡志賀嶋村

群馬県勢多郡利東鉾山

大分県下毛郡旭金山

秋田県秋田市附近

山形県南村山郡蔵王鉾山

福島県南会津郡大宮鉾山  
青森県下北郡安部城鉾山

朝鮮咸鏡南道北青鉾山

森岡履

徳蔵技手

小川技手

高嶺技手

山中履

森尾技手

細井履

吉田履

徳蔵技手

大久保履

加々美技手

宮沢技手

杉崎技手

森岡履

高嶺技手

昭和十七年 自六月二十五日 至七月二十三日

昭和十七年 自七月五日 至八月九日

昭和十七年 自七月十五日 至十二月十五日

昭和十七年 自七月二十七日 至十月二十七日

昭和十七年 自八月二十日 至八月二十七日

昭和十七年 自八月十五日 至十月十二日

昭和十七年 自八月二十七日 至八月二十七日

昭和十七年 自八月二日 至九月二日

昭和十七年 自八月三十一日 至八月三十一日

昭和十七年 自九月十一日 至九月十一日

昭和十七年 自九月十日 至九月十日

昭和十七年 自八月十五日 至八月十五日

昭和十七年 自九月二十五日 至九月二十五日

昭和十七年 自九月三十日 至九月三十日

昭和十七年 自十二月十八日 至十二月二十五日

佐藤技師ノ調査ニ伴フ

加来技師ノ調査ニ伴フ

飯田技師ノ受託調査ニ伴フ

西川技師ノ調査ニ伴フ

波江野技師ノ調査ニ伴フ

福永技師ノ調査ニ伴フ

野口囑託ノ調査ニ伴フ

淵田技師ノ調査ニ伴フ

加来技師ノ調査ニ伴フ

室住技師ノ調査ニ伴フ

村上技師ノ調査ニ伴フ

滋賀県高島郡朽木鉾山	大久保履	昭和十七年	自十二月十八日	福永技師ノ調査ニ伴
熊本県球摩郡平沢津鉾山	森 技 手	昭和十七年	自十一月十一日	福永技師ノ調査ニ伴
山口県玖珂郡生高鉾山	加々美技手	昭和十七年	自十一月二十二日	淵田技師ノ調査ニ伴
秋田県秋田市附近	森 技 手	昭和十八年	自二月十八日	福永技師ノ調査ニ伴
山口県玖珂郡生高鉾山	森 岡 履	昭和十八年	自二月二十日	守屋技師ノ調査ニ伴
高知県土佐郡高川鉾山				

附 記

加々美技手、鉄羅技手ハ外務省並ニ拓務省ノ囑託トシテ、加々美技手ハ齊藤技師ニ随ヒ、鉄羅技手ハ片山(信)技師ニ随ヒ、共ニ昨年度ヨリ引続キ仏領印度支那方面ノ測量ヲ施行セリ

小松技手ハ興亜院ノ囑託トシテ三土技師ニ随ヒ蒙疆方面ノ測量ヲ施行セリ

山田技手、鈴木(昇)技手、山下技手、橋本技手、金子技手、窪木技手、加藤技手、磯技手、山屋履、一丸履、菅沼履ハ海軍省ノ囑託トシテ、山田技手ハ鈴木技師ニ随ヒ鈴木(昇)技手、山屋履ハ金原技師ニ随ヒ、山下技手ハ紺野技師ニ随ヒ、橋本技手、一丸履ハ齊藤技師ニ随ヒ、金子技手、菅沼履ハ八木技師ニ随ヒ、窪木技手ハ千藤技師ニ随ヒ、加藤技手ハ早川技師ニ随ヒ、磯技手ハ別所技師ニ随ヒ共ニ軍ニ配属シ調査測量ニ従事セリ

宮沢技手ハ興亜院囑託トシテ佐藤技師ニ随ヒ中支那方面ノ測量ヲ施行セリ

山田囑託ハ海軍省囑託トシテ堀技師ニ随ヒ軍ニ配属シ調査測量ニ従事セリ

一、圖 幅

七万五千分一図幅地形原図ノ本年度中ニ完成セルモノ其数一、着手後未完成ノモノ其数五ニシテ其図幅名、製図員其他左表ノ如シ

(図 幅 名) (製 図 員) (記 事)

船	津	秋野	技手	昭和十五年度着手	本年度完成
那	智	神村	技手	昭和十三年度着手	本年度未完成
塩	原	相見	技手	昭和十四年度着手	同
小	本	笹原	技手	昭和十六年度着手	同
山	形	笹原技手、小宮山技手、安室技手	技手	昭和十六年度着手	同
勝	間	水野	技手、秋野技手	本年度着手	同

二、地質鉄床図

(図 名) (縮 尺) (種類) (員 数) (製 図 員) (記 事)

海南島鉄鉱、白川鉱山等	至五分	鉄床	二六	技手萱間、安室、草深、鈴木、履吉見、小島	本年度着手
鍋頂山石綿鉄床、大堀鉄山等	至五分	坑内	五	技手鈴木、高木、履吉見、小島	同
石碌鉄山、デジレ鉄山等	至五分	断面	九	技手萱間、安室、草深、鈴木、高木、履池下	同
北見国雄武村チタン鉄鉱 老開燐灰石鉄層等	至五分	柱状	五	技手萱間、安室	同
南方地域鉄産區 飛騨地方鉄山等	至五分	分布	一〇	技手秋野、萱間、安室、水野、鈴木、高木、履池下、吉見、小島	同

### 三、油田地形及地質圖(燃料)

(圖名)	(縮尺)	(頁數)	(製図員)	(記事)
八石油田	二万分一	一	安室、中沢、萱間	昭和十六年度着手 本年度完成
八石油田試掘井柱狀圖	五千分一	一	萱間	本年度着手 本年度完成
静岡県焼津、清水附近天然瓦斯	五万分一	二	萱間、吉見	同

### 四、物理探鉱圖

(圖名)	(縮尺)	(頁數)	(製図員)	(記事)
山口県根笠電氣探鉱圖他二件	五千分一	三	安室	本年度着手 本年度完成

### 五、特別製圖

(圖名)	(縮尺)	(頁數)	(製図員)	(記事)
沖繩本島地質圖(透写)	十万分一	二	高木	本年度着手 本年度完成
八重山、宮古諸島地質圖(透写)	同	二	鈴木	同
ボルネオ地質圖其他(陽画)	自百分ノ一 至二百五十万分一	三五	鈴木、秋野、萱間、草深、鈴木、高木、履池下、吉見、小島	同
右陽画ニ伴フ着色		二七三	右同	同
世界石油分布圖其他(図表)		一一	安室	同

## 六、製図參考資料調査

(調査地)	(調査員)	(外業期間)	(記事)
栃木県	相見 技手	昭和十七年 自八月廿五日 至九月七日	塩原図幅地域へ出張
岩手県	笹原 技手	昭和十七年 自八月廿五日 至九月七日	小本図幅地域へ出張
岐阜県	秋野 技手	昭和十七年 自九月十日 至九月廿三日	船津図幅地域へ出張
和歌山県	神村 技手	昭和十七年 自九月廿一日 至十月四日	那智図幅地域へ出張
和歌山県	水野 技手	昭和十七年 自十月三日 至十月十八日	和歌山図幅地域へ出張
山形県	小宮山 技手	昭和十七年 自十月七日 至十月廿四日	山形北部図幅地域へ出張

## 五、分析及品質試験 (第六部担当)

### 一、分析試験

本年度ニ於ケル分析品目、個数、成分検定数細別左表ノ如シ。

(品名)	(個数)	(成分検定数)	(品名)	(個数)	(成分検定数)
粘 岩	一一	一〇七	ク ロ ム 鉍	三六	九七
土 石	四四	四六七	ニ ツ ケ ル 鉍	二〇六	四四六



日本標準規格分析方法制定ノ為アルミニウム及マグネシウム合金ニ就テ、又鋳産物分析法協議会ニ於ケル分析方法制定ノ為粗銅、ア  
ンチモン鋳、重石及水鉛鋳ニ就テ研究分析ヲ行ヘリ。

二、特別試験

菱苦土鋳	雲母	硫黃鋳	磷鋳	鉄鋳	ニツケルマツト	鋳石	水銀鋳	アルミニウム鋳	鉄鋳	鉛亜鉛鋳	銅鋳	金銀鋳	珪石	明礬石	黄石
八	四	九六	三	二	一	四一	一	五	一二四	一六	五八	一〇〇	三	二五一	三二
二六	二六	一九二	五	九	五	一五一	一	二〇	三四四	四三	一五二	二〇七	一一	二七六	三六
計	鋳泉	原油	黒鉛	石炭	芒硝	モナズ石	石綿	アンチモン鋳	硫化鉄鋳	石灰石	重晶石	水鉛鋳	重石鋳	マンガン鋳	コバルト鋳
一、二六二	六四	五	一七	二七	一	一	一八	二	五	一七	九	一三	一	三七	三
四、〇八四	七五八	一四	一七	二五〇	一	六	一六二	五	一三	七四	三二	二九	一	九八	三

### 三、特別調査

本年度ニ於ケル出張調査件名等左ノ如シ

(調査件名)	(府県名)	(出張員)	(外業期間)	(記事)
鉱産物分析法協議会	岡山、香川	石川 技手	昭和十七年 自五月十九日 至五月十九日	福永技師ノ調査ニ伴フ
水	岩手	関根 技手	昭和十七年 自六月十二日 至六月十二日	福永技師ノ調査ニ伴フ
水	長野、山梨	北島 技手 藤谷 技手	昭和十七年 自七月二十二日 至八月四日	石井技師ノ調査ニ伴フ
水	群馬	齊藤 技手	昭和十七年 自八月二十五日 至八月二十五日	福永技師ノ調査ニ伴フ
硫黄	山形	磯野 技手	昭和十七年 自八月二十七日 至九月二十日	加来技師ノ調査ニ伴フ
ニツケル	福岡、大分	平塚 技師	昭和十七年 自十月二十三日 至十一月二日	福永技師ノ調査ニ伴フ
水	滋賀、熊本	藤谷 技手 田部 履手	昭和十七年 自十一月五日 至十二月十二日	福永技師ノ調査ニ伴フ
水	山口	齊藤 技手	昭和十八年 自一月二十八日 至一月二十八日	福永技師ノ調査ニ伴フ

右ノ外海軍嘱託トシテ平塚技師ハ南支海南島へ、石田技手、北島技手、藤谷技手ハ南方海軍地区へ出張セリ

### 六、庶務及会計 (庶務課担当)

一、職 員

本年度中に於ケル職員ノ異動左ノ如シ。

任 官

地質調査所技師

川崎一斎  
守屋益男

同 同

末野悌六  
吉村泰明

同 同

平山健  
神村竜造

同

小松直藏

同

栗原重利

地質調査所技師  
兼商工技師

高安俊輔

同

木村多平

同

藤田八郎

地質調査所技師

小宮山 湛

同

小出博

同

松井 寛

同

高 鼠 彰

同

早川正巳

同

青地清彦

地質調査所技師

村尾昌彦

同

相沢七郎

同

小池正忠

同

小関幸治

同

八坂英一郎

同

安室 豊

同

土持公範

同

吉田朝男

同

一丸正勝

地質調査所屬

竹中正男

転 任

任陸軍司政官

三土知芳

任陸軍技師

池辺展生

同

片山信夫

同

近藤信興

同

川崎一齊

任技術院參技官

遠藤六郎

任陸軍技師

芦沢文夫

同

野口保夫

同

堀本健次

休 職

地質調査所技師

桑田士郎

同

小関幸治

同

吉田朝男

同

広川治

同

杉崎七郎

定員外職員

第十六軍政監部附 池 辺 展 生

同 西川与志男

同 野口保夫  
第一南遣艦 堀 純 郎  
隊司令部附

南方燃料廠附 波江野清蔵  
同 関根節郎

退 官

地質調査所技師 小宮山 湛

同 古 沢 実

地質調査所技師 山下脩二  
同 桑田士郎

同 相沢七郎

殉 職

地質調査所技師 波江野清蔵

同 西川与志男

死 亡

地質調査所技師 服部 信 一

同 高 嶺 巖

嘱 託

北海道帝国大学 助 教 授

同 佐々保雄

旅順工科大学教授

石橋正夫  
小倉 勉  
本間不二男

同 朝鮮總督府  
地質調査所長

石川俊夫  
立 岩 巖  
坂本峻雄  
植村癸巳男

資源科学研究所員 鈴木好一  
台湾總督府技師 大江二郎  
佐藤 戈 止

本年度ニ於ケル經費ハ

二、 経 費

三、出版物

經常部	地質調査	俸	給	七二、二六二
臨時部	臨時部	俸	給	七一、一六三
	油田地質調査	俸	給	七九、八七九
	地質調査	俸	給	三五七、五一一
	地質調査	俸	給	六六、三七一
	同增加分	俸	給	一九六、〇四七
	鐵鍬及製鉄用鍬物資源調査	俸	給	一四、四〇〇
	鐵鍬及製鉄用鍬物資源調査	俸	給	八八、五六〇
	鐵鍬及製鉄用鍬物資源調査	俸	給	一七、四六〇
	鐵鍬及製鉄用鍬物資源調査	俸	給	八七、三〇〇
	鐵鍬及製鉄用鍬物資源調査	俸	給	五、四三二
	鐵鍬及製鉄用鍬物資源調査	俸	給	四三二

以上





北海道日高国様似郡ニツケル鉾床調査報文

官城丸森水鉛鉾山鉾床調査報文

北海道国富鉾山地質調査報文

第二号

福島県大森鉾山鉾床調査報文

福島県杉峠鉾山金鉾床調査報文

第三号

石川県金沢市附近砂金鉾床予察調査報文

福井県遠敷郡北川流域砂金鉾床調査報文

第四号

新潟県鉾物資源調査報文

四、文庫

本年度内ニ於テ本邦ノ官庁・大学・学会・博物館等ノ交換先ヨリ図書ノ寄贈アリタルハ五十四箇処ニシテ受入箇処及図書数左ノ如シ

官 庁 大 学、学 会、図 書 館 等 会 社	(交 換 先)		(受 入)	
	箇 処	数	箇 処	数
	一八		二	一三四
	三三		一	二八二
	三		一	五九
計	五四		二	四七五

本年度内、交換先以外ノ箇処ヨリ図書ノ寄贈ヲ受ケタルモノ二十四箇処、個人ノ好意ニヨリ貴重ナル図書ノ寄贈アリタルモノ八件アリ、何レモ本所ノ事業上有益ナル資料ニシテ誠ニ感謝ニ堪ヘザルトコロナリ



(寄贈先)

(箇処数)

(受入図書)

官庁	六	地質図	1	報文類	六五
大学、学会、図書館等	一五	地形図	1		一八〇
会社	三		1		一六
個人	八		1		二九
計	三二		七		二九〇

就中左記ハ特ニ有益ナル図書ヲ寄贈セラレタルモノニシテ茲ニ芳名ヲ録シ厚ク謝意ヲ表スルモノナリ

Bulletin du Service Geologique de L'Indochine Vol. XIV, Fasc. V.

Classified List of Publication of the Carnegie Institution of Washington, 1927.

Topographic map "Birmanie" 1:2500000.

ボリビア鉱床地図 百万分一(附録共) 外五点

Bulletin du Service Geologique de L'Indochine Vol. X VI, Fasc. 2. 1941.

二十万分一地質図説明書宿毛外七点

一千万分一太平洋全図外二点

地形学原論

ペルシヤ湾沿岸石油事情

故中村正義学土地質学古生物学著作集

南方鉱物資源外二八点

外国ノ交換先ヨリ図書ノ寄贈ヲ受ケタルハ何レモ報文ニシテ満洲国地質調査所五、バンドン地質調査所一、満洲国立中央博物館一、

新京工業大学一、上海自然科学研究所一〇、南満洲鉄道株式会社ヨリ二冊アリ。其他大陸科学院ヨリ一二、満洲地質協会ヨリ二冊寄贈

セラレタリ。

本邦ノ官庁、大学、図書館、博物館、会社及個人ニ対シ本所出版物ヲ発送シタルハ交換先五十一箇処、其他三百五十五箇処ニシテ寄

- 八木次男
- 金原均二
- 齊藤正次
- 太平洋応用鉱物協会
- 片山信夫
- 小寺房治郎
- 山根新次
- 三野与吉
- 三菱石油株式会社
- 鈴木好一
- 海外鉱業協会

贈圖書及部数左ノ如シ。

(交 換 先)

(箇 処)

(数)

(地質調査所輯報)

官 庁  
 大学、学会、図書館、博物館等  
 会 社

計

二一  
 二六  
 四  
 五一

二一  
 二六  
 四  
 五一

其 他 官 庁  
 大学、学会、図書館等  
 会 社  
 個 人  
 合 計

計

八〇  
 八四  
 一九  
 一七二  
 三五五  
 四〇六

八〇  
 八五  
 一九  
 一七二  
 三五六  
 四〇七

購入図書ハ地図四点、書籍百二十三冊ナリ。即チ左ノ如シ

(地 質 図)

(地 形 図)

(書 籍)

地質学、地理学ニ関スルモノ  
 化学及其応用ニ関スルモノ  
 物理探鉱ニ関スルモノ  
 其 他  
 合 計

二 | | | 二

二 | | | 二

五九  
 五  
 三五  
 二四  
 一二三

# 地質調査所職員 (昭和十八年三月末現在)

技所 師長 山根新次

## 第一 部

技部長事務取扱 師 山根新次

技師 田中元之進

技師兼東北帝  
国大学助教

河野義礼

技師 松沢勲

技師 山田節三

技師 千藤忠昌

技師 小出博

技師 早川典久

技師 平山健

技師 吉村泰明

兼務技師 鈴木達夫

兼務技師 金原均二

兼務技師 岩生周一

技手 柏木重次郎

嘱託 関口俊太

嘱託 佐々保雄

嘱託 石川俊夫

嘱託 鈴木好一

嘱託 石橋正夫

嘱託 大江二郎

嘱託 立岩巖

嘱託 小倉勉

嘱託 坂本峻雄

嘱託 佐藤戈止

嘱託 植村癸巳男

嘱託 本間不二男

## 第二 部

部長技師兼  
興亜院技師兼  
師 石井清彦

技師 末野悌六

技師 別所文吉

技師 岩生周一

技師 宮本弘道

技師 高畠彰

技師兼商工技師 木村多平

技師兼商工技師 藤田八郎

兼務技師 鈴木達夫

兼務技師 八木次男

兼務技師 紺野芳雄

技手 小池正忠

技 技部

第三部

師 師長 八木次男  
青地清彦  
兼務技師 金原均二  
囁 技 師 松井寬  
託 河田五郎

第四部

師 紺野芳雄  
飯田汲事  
師 淵田隆門  
守屋益男  
技 佐藤光之助  
師 村上義朗  
高安俊輔

技 技 技 技 技 技 技 技 技 技 技 技 技

第五部

手 手 手 手 手 手 手 手 師 師 師 師  
伊藤毅  
土持公範  
金子純  
八坂英一郎  
杉山友紀  
白土忠  
直井正作  
栗原重利  
福永三郎  
飯田汲事  
紺野芳雄  
囁 技 技 技 技 技 技 技 技 技 技 技  
託 手 手 手 手 手 手 手 師 師 師 師  
松沢武雄  
松尾治三郎  
井上忠行  
金井光明  
松元重人  
半井康博  
菅福久  
早川正巳  
加來一郎  
守屋益男  
淵田隆門  
兼務技師  
技師兼商工技師  
師 師  
野口高  
廣沢經夫  
渡辺光樹  
蜷川親治  
野口勝  
竹田民英  
室住正義  
八木次男  
高安俊輔  
佐藤光之助  
村上義朗  
高安俊輔

技 技 技部

手 手 師長  
山田千稻  
相見角治  
鈴木達夫  
技 技 技  
手 手 手  
秋野梅太郎  
米谷菊太郎  
神村竜造  
技 技 技  
手 手 手  
鈴木昇  
笹原栄雄  
小松直藏

技	手	森守之助	技	手	萱間泰雄	技	手	水野初
技	手	山下章	技	手	小川晴男	技	手	加々美時寛
技	手	鉄羅和夫	技	手	金子政利	技	手	橋本与太郎
技	手	徳藏勝治	技	手	窪木時雨郎	技	手	宮沢芳紀
技	手	和田政男	技	手	加藤末吉	技	手	安室豊
技	手	草深源三郎	技	手	鈴木俊郎	技	手	村尾昌彦
技	手	高木二郎	技	手	磯崎巳代次	技	手	一丸正勝
技	手	茅山芳夫	技	手	磯崎三郎	技	手	浅岡肇太
嘱	託	山田正	嘱	託		嘱	託	

第六部

技師兼商工技師	技師	平塚隆治	技師	手	石田与之助	技師	手	磯野清
技	手	田畑政治	技	手	北島三郎	技	手	齊藤一雄
技	手	藤谷吉三	技			技		

庶務課

課長	長	佐藤友治郎	課長	屬	佐藤東一	課長	屬	秋本竜雄
屬兼商工屬	屬	小笹力	屬	屬	河野輝一	屬	屬	葛西英二
屬	託	竹中正男	屬	手	松崎美房	屬	託	熊沢銀次郎
屬		荒井村三	技			嘱		

昭和十七年七月十五日印刷（第二百二十六号）

昭和十七年七月二十日發行

昭和十九年十二月二十五日印刷（第二百二十八号）

昭和十九年十二月三十日發行

昭和二十九年十二月一日印刷（再版）

昭和二十九年十二月五日發行

# 地質調査所編纂

東京都台東区東黒門町三番地

印刷者 田 中 春 美

東京都台東区東黒門町三番地

印刷所 田 中 幸 和 堂 印刷所